

もみじ

—広島県山岳・スポーツクライミング連盟会報—



一般社団法人 広島県山岳・スポーツクライミング連盟
〒733-0011 広島市西区横川町 2 丁目 4-17
電話・FAX (082) 296-5597
E-Mail: hgakuren@lime.ocn.ne.jp
URL: <http://hiroshima-gakuren.or.jp>
郵便振替口座 01380-6-37958

題字デザイン 今村みずほ

編集 西部伸也

本号内容

1. 新年互礼登山 (1/8 宮島) 報告
2. 県スポーツ協会表彰 (12/3 リーガロイヤルホテル) 報告
3. 登山教室 (1/21~22 大山) 報告
4. 岳連短信 (寄贈御礼、2~3 月の行事予定)

1. 新年互礼登山報告

(理事 福永 やす子)

豊田理事長から、所用で行けないとのことで、厳島神社での安全祈願の受付のお願いが各理事宛にメールで届き、何方も返答がないようなので、「大役ですが私で良ければ」と引き受けましたので報告をします。

スマホで返事をしたので 1 月 7 日 和木の自宅に帰り送られて来た「加盟団体のリスト」を印刷に掛けたのですが、全体が印刷出来ず村井副会長に印刷してもらって前夜準備を終え翌朝を迎えました。

栈橋、鳥居の改修と真新しい宮島の参拝に気の引き締まる思いで連盟行事の「安全祈願、新年互礼登山」で宮島口栈橋(本土側)フェリー乗り場に集合しました。登山者の中に 2, 3 の連盟加盟団体や関係者の仲間もチラホラ見えて新年の挨拶を交わして山田会長と合流して仲間と一緒に JR フェリーに乗船。新年の宮島を眺めると改めて気の引き締まる思いを感じました。

沢山の登山者も最終的には 7 名で安全祈願のお参りになり、受付で祈願申込書に加盟団体のリストと会長からの奉納も添えて受付し、無事に安全祈願を終えました。コロナ対策で酒入りのゼリーを各人に戴きました。記念写真を済ませ各人大元公園、多宝塔コース

から駒ケ林に集合し、会長直々に少しではあるがお酒を振舞われて安全祈願をしました。出来る事なら新年の初めに各加盟団体の代表一人でも行事に参加して今後の発展を共有出来ればと感じました。

今年こそは加盟団体あつての広島県山岳・スポーツクライミング連盟です。皆さんの意見を聞き連盟に興味を持ってもらって皆さんと共に切磋琢磨して行けたらと願っています。





2. 県スポーツ協会表彰報告

(理事長 豊田 和司)

令和 4 年 1 2 月 3 日、リーガロイヤルホテルで、広島県スポーツ協会の令和 4 年度の表彰式があり、当連盟の村井副会長が、体育功労者として表彰されました。村井氏は平成 4 年から 3 0 年の長きにわたり、当連盟の理事を務められ、令和元年からは副会長を務められています。理事就任以前より、事務局員として総務全般を担当。特に会報の編集、発行に尽力されましたし、また平成 2 1 年の当連盟の法人化に際しては、準備委員会の委員として活躍されました。また平成 3 0 年の広島県山岳・スポーツライミング連盟への名称変更にあたっては、オピニオンリーダー的存在として、名称変更を推進されました。

当日、インターハイで優勝し表彰された広島学院高校の登山部の選手たちと一緒に記念写真に収まりましたが、村井氏は、同校山岳部 OB であり、同校が初めてインターハイインターハイに出場した時の選手です。ちなみに、その時監督としてチームを率いたのが、尾道憲二氏でした。



3. 登山教室報告

(指導部長 森本 寛)

第 10 回 1/21(土)～22(日)

登山形態：小屋泊

山城：大山

人数：8 名 (スタッフ含)

今回はビバーク訓練で大休峠へ向かいましたが、コロナ禍で昨年実施出来なかった講習を優先させた為、雪洞を完成できず小屋泊に変更しました。2 日も早朝より講習しながらの行動をとり来月の山行にむけての準備をしました。(森本)

【感想文】

『大山雪山 (草谷-大休峠避難小屋-香取) 』

(登山教室 2 年 李 京子)

真冬の雪山で雪洞掘って寝てみようというビバーク訓練計画に、出発前から怖気づいていた。前月の大山雪山訓練では、夏道で暴風雪を体験した。今回ばかりは丁寧に荷造りし、キャベツのように服を着込んだ。

銀世界の香取草谷展望駐車場をスタートする。阿弥陀川を渡る橋にうさぎの足跡。この日は兎年の旧正月だった。跡をついて行ってみたい気もしたが、そんな場合ではない。取り付きの雪斜面を登り、川床登山口に立つ。ひと気はないが、大山スキー場から流れてくる競技アナウンスが時折、山の静寂を乱す。登山道は雪にすっかり埋もれていても、藪もなく歩き易い。風がないのが幸いだったが、雪が降ったり青空を覗かせたりと忙しい天気だった。ワカンを着用しラッセルを開始する。膝下ラッセルで先頭もさほど苦ではなかった。キラキラ輝く新雪を一步一步踏み締める。直線に進路をとって近道もできる。香取分れを過ぎ、左手には甲ヶ山が見えた。目的地は見えない峠である。歩き疲れてきたところで、尾根道を外れて深い谷に下った後、正面に立ちのぼる尾根の麓で横一列に広がり、各自で登るという。ここまでは先頭で雪の階段を作ってくれていたが、獅子の子落しならぬ愛の特訓。いざ衣類調整し、ウルトラマンの高さの急斜面を見上げる。立ったままでは不安定で太刀打ちできない。二本束ね持ったストックを両手で雪に押し込み、片足はワカンの先を蹴り込む。押しや蹴りが甘いと雪に侮られ跳ね

返される。支点としたもう片足を置く雪も崩れ、三重手袋の両手と両足ワカンのさながらバルタン星人、雪の壁に四つん這いになった姿でズルズル滑り落ちる。上りではワカンの先を下向きに蹴り込む、つま先に重心を置くという教えになるほどよくわかった。寒いやら暑いやら、辛いのか楽しいのかももうわからなくなっていたが、奈落の底から一人ずつ、全員が這い上がって来た時はほっとした。続いて大休峠避難小屋が見えた時の喜びは言い尽くせない。ありがたい山奥の小屋に入れてもらって荷を下ろした後、ショベル持参で外に出る。雪崩を想定した埋没訓練、積雪断面の弱層確認テスト。雪洞は雪の掘り方などを教わりながら、一メートル四方まで掘り進んだところでタイムリミット。身体を屈めて雪洞の中に入ってみる。確かに暖かかったのが不思議だった。飲食用に雪を集め、夕飯準備にとりかかる。きれいなフワフワ雪を集めていたが、氷雪の方が水づくりの効率が良いと聞きハツとする。ぼっと生きていちゃいけません。食事当番が丹精込めて準備してくれた栄養満点の鍋料理は、長かった一日の疲れを癒して余りあった。プラティパスを懐に、九本の川の字になって深い眠りにつく。

翌朝 4 時起床。男性陣が作ってくれた朝ご飯はおいしくないワケがない。ザックを小屋に残して出発する。滑落停止訓練ができる斜面を求め、矢筈ヶ山に登る。前方彼方の水平線が真っ赤に染まり、空が白みかけて来た。闇の中から徐々にパノラマ風景が浮かび上がる。大山の頂は雲に隠れていたが、その左奥に気高く聳える山。山頂の黒い岩場には雪がつかず、八咫鳥が羽を広げた形に見えるという烏ヶ山だった。昨年の教室登山では霧に包まれ水墨画のようだった山に、こんな場面で再会するとは。山を畏れ崇めた古の人々が身近に感じられた。遠景の一部でしかなかった山が胸に迫ってきて、もうそれだけで十分だったが、滑落停止訓練が残っていた。滑落した時は素早くひっくり返って脇を閉じ、肘をストッパーにする。同時に足が軸となってひっくり返らないよう、膝を曲げ足先を宙に浮かせる。圧巻の景色のなかで滑り台をしているようで、これはなかなか楽しい訓練だった。

帰路は二手に分かれ、健脚組は来た道を引き返し、

残りの隊は香取分れから新雪を踏み、香取に下った。車道に合流すると緊張が解れたが、雪道がまっすぐ続く。しばらく歩く覚悟でいたところに、三台の車が迎えに来てくれた。早朝から雪道の運転まで、有難うございました。最後に香取展望駐車場でビーコン訓練を行って、帰路についた。十年に一度という寒波が到来したのはその後である。

来月も大山雪山での実践訓練が予定されている。全幅の信頼を置けるスタッフと良き仲間たちに、いつもながら感謝します。

(写真提供 久保田 征治)



4. 岳連短信

1. 寄贈御礼

1/19 三原山の会『筆影』No. 515 (2月号)

1/26 福山山岳会『会報』2月号

広島山岳会『山嶺』第 890 号 (1月)

広島やまびこ会『やまびこ』796

1/24『中信高校山岳部かわらばん』716

2. 2～3月の行事予定

2/25～26 冬山技術研修会 (ひろしま県民の森)

3/4～5 中国地区山岳連盟/協会連絡協議会 (山口県)

編集部より

○この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお願いします。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。

○会員団体会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。随時紹介します。

○この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい。

(右は福永理事からの 1/8 宮島の写真)

